

た売上拡大には無くてはならない条件なのです。
育苗業者の中では「苗」が営業をされると言われる、
所以がそこにあります。

3) 生産戦略

ベルグアース株式会社は、基本戦略として生産をヌードメイク苗の生産に特化し、第一次育苗・接木に特化するメーカーとして、生産性の向上と併せ品質の向上を図ります。山口園芸グループとして培った、

①一次育苗の技術を継承発展し、接木しやすく良質な一次育苗苗を安定供給し、

②技術集積度の最も高い接木部門の「技術ノウハウ」の生産性と品質の向上を図り、播種率の大幅な改善を軸に大幅コスト削減を図ります。

株式会社山口園芸はヌードメイク苗に基づく二次育苗に特化することにより、当社の委託業者の中の最も有力な企業として「生産性と品質に優れた企業」として、再スタートしました。

何より山口園芸グループとして培った、生産技術のノウハウの技術蓄積と当社の委託企業への適正な対価による「技術移転」を積極的に行い、当社の生産技術の先導企業としての役割を担います。さらに生産委託先の開拓深耕に注力します。

4) 閉鎖型苗生産システムによる接木苗の生産性向上

当社は、閉鎖型苗生産システムを導入し、一次育苗の安定化と効率化を実現し、接木苗の生産性向上を図ります。

閉鎖型苗生産システム導入には以下の効果が期待されます。

①生産性

ハウス育苗による、育苗日数の変動（夏16日～冬28日）を克服し、年中一定の日数を実現できるため回転率が上昇します。また、集約的な生産ができるため、単位面積当たりの育苗本数はハウス育苗に比べほぼ3倍以上となり、これらの結果から生産性をほぼ4倍以上にすることができます。



閉鎖型育苗システム外観



育苗棚



閉鎖型育苗の苗（トマト）

②生理障害・病害虫リスクの低減

現在のハウス育苗による異常苗リスクは一定の割合で発生しますが、閉鎖的で再現性の高い育苗環境で生産することにより、このリスクを低減することが可能になります。

また、病害虫に対する農薬散布が必要なくなり、無農薬苗といった新たな付加価値商材を生み出し、無農薬・減農薬といった時代のニーズに沿った商品供給も可能となります。

③安定性

ハウス育苗では、「天候・育苗管理者・ハウス設備」によって育苗環境が変動するため、接木技術や播種率を上げることによってこの変動をカバーしてきました。閉鎖型苗生産システムでは、接木ステージに高品質で安定した苗を供給することが可能となり、播種率の改善によるコスト削減を行うことがで